

2017年8月2日

(ご参考)

マツダ株式会社
2018年3月期 第1四半期 決算説明会
(スピーチ要旨)

常務執行役員 企画領域統括補佐、財務担当
藤本 哲也

1. 総括

2018年3月期 第1四半期のグローバル販売台数は、対前年1%増の37万7千台と過去最高の販売実績を達成し、財務実績では、売上高8,021億円、営業利益399億円、当期純利益366億円となりました。新型CX-5を日本に続き、北米、豪州、欧州などグローバルに展開し、各市場とも好調な販売となっています。

続いて、通期見通しですが、グローバル販売台数160万台、営業利益1,500億円、当期純利益1,000億円と、期初公表から変更はありません。

通期においても、新型CX-5をはじめとしたSKYACTIV商品の拡充により、年5万台レベルの台数成長を目指すとともに、クロスオーバー系の車種の生産フレキシビリティ拡大により、生産・販売のモメンタムを加速していきます。

2. 2018年3月期 第1四半期実績

グローバル販売台数は、過去最高の37万7千台となりました。

車種別では新型CX-5の主要市場への導入が進捗したことに加え、中国のCX-4などのクロスオーバー系車種が台数成長を牽引しました。

地域別では北米やその他地域での台数が減少する一方で、前期から好調な中国や、販売モメンタムが改善傾向の日本によって、前年を上回る販売実績となりました。

各マーケットの販売状況について説明します。

日本の販売実績は対前年5%増の4万1千台、登録車シェアは前年同水準の4.1%となりました。日本では、4月より発売を開始した先進安全技術を標準装備したデミオが、販売モメンタムの改善に貢献しています。また、新型CX-5は、計画を上回る販売実績となり、特にハイグレードモデルが好調な販売となっています。加えて、2018年10月以降に表示が義務化される燃費モード「WLTCモード」の認可を先行して取得したCX-3ガソリンエンジンモデルの販売を、7月より開始しています。

北米は10万6千台を販売し、対前年で6%の減となりました。うち、米国では7万3千台の販売で、フリート販売の減少を主要因として、対前年で10%減少しました。クロスオーバー系車種での販売モメンタムは継続する一方で、乗用車セグメントにおいて需要の縮小や競合激化など厳しい販売環境が継続しています。3月より市場導入した新型CX-5は好調な販売であり、計画に対して順調な進捗となっています。

また、米国道路安全保険協会 (IIHS) の安全評価試験において、評価対象の全車種が、最高評価「2017トップセーフティピック+ (プラス)」を獲得し、高い安全性能を証明しました。

メキシコについては、新型CX-5の導入などにより、対前年11%増の1万2千台の販売実績です。

欧州では、対前年3%減の6万4千台の販売です。新型CX-5の導入を5月より開始しました。順調な滑り出しです。ロシアを除く欧州では、対前年5%減の5万8千台となり、このうちドイツが対前年8%増の1万8千台、英国では対前年19%減の7千台となりました。ロシアでは、需要の増加を上回る対前年26%増の6千台の販売実績です。

中国では、対前年20%増の7万1千台となり、第1四半期として過去最高の販売台数を達成しました。販売モメンタムが継続したMazda3とCX-4が販売を牽引したことに加えて、Mazda6が販売増加に貢献しました。

その他市場では、対前年3%減の9万4千台の販売です。オーストラリアでは、対前年2%増の3万1千台と第1四半期として過去最高の販売台数となりました。また、メーカー別販売台数では第2位を継続しています。アセアンでは、タイで対前年20%増となりましたが、ベトナムでは需要が関税撤廃による買い控え影響を受け、アセアン全体では対前年3%減となりました。その他では、ニュージーランド、チリ、ペルーで過去最高の販売台数を達成しています。

第1四半期の財務実績について説明します。

売上高は、対前年3%増の8,021億円となりました。営業利益は399億円と対前年で125億円の減益となりましたが、当期純利益は、主に為替評価差益により営業外収支が改善したこともあり、対前年から154億円増加の366億円となりました。

為替レートは、平均で1ドル111円、1ユーロ122円とドルで前年に比べて、3円の円安、ユーロは前年同水準です。

連結営業利益の前年に対する減少額125億円の要因について説明します。

台数・構成では、米国やその他地域での出荷台数の減少に加えて米国での競争激化に伴う販売奨励金の増加などの影響により、130億円の悪化となりました。変動コスト領域では、新商品や海外工場でのコスト改善活動の強化による改善を原材料価格の高騰が一部相殺して、8億円の改善にとどまりました。研究開発費では、次世代技術や商品の開発の強化により、62億円増加し、その他固定費領域では、品質関連費用が減少したことなどにより56億円の改善となりました。

3. 2018年3月期 通期見通し

2018年3月期の通期見通しについては、グローバル販売台数、財務指標ともに変更ありません。

4. 「構造改革ステージ2」主要施策の進捗

「構造改革ステージ2」の主要施策の進捗について説明します。

商品・開発領域では、新型CX-5のグローバル展開は順調に進捗しており、今後、販売を本格化していきます。続いて、日本市場には、3列シート採用のマツダCX-8を2017年中に導入していきます。また、今月8日に技術開発の新長期ビジョンを公表いたします。マツダ独自のクルマづくりや環境・安全への取り組みについて説明しますので、ご期待ください。

グローバル販売・ネットワーク強化においては、新商品/商品改良モデルの投入により年5万台レベルの持続的な台数成長を目指します。同時に、ブランド価値向上に向けた販売ネットワーク改革では、マツダブランド体験の改善、新世代店舗の展開や、認定中古車事業の強化など、再購入率向上への取り組みを推進していきます。

グローバル生産領域では、クロスオーバー系車種の生産フレキシビリティ拡大により台数成長をサポートします。そのために8月には、本社工場で、クロスオーバー系車種の生産能力拡大を行い、さらに10月には防府工場で新型CX-5の生産を開始します。

財務基盤強化ですが、着実な台数成長とブランド価値向上により収益力/キャッシュフロー創出力を向上させていきます。研究開発や設備投資などの将来に向けた成長投資強化は計画通り進捗しています。財務基盤を強化しつつ、安定的な配当の実現と着実な向上を図り、持続的なビジネス成長と中期的な企業価値向上を目指していきます。

以上